

2014年6月実績概要（メモ）

（2014. 7. 17）

1. 生産動向

イ) エチレン 483,300トン

前月比 ▲8.8%（▲46,900トン）
前年同月比 ▲6.9%（▲36,100トン）

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	-
定修要因等	▲7.3%	▲10.2%
能力増減	▲0.4%	▲6.2%
稼働率変動	+2.1%	+9.5%
生産増減率	▲8.8%	▲6.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月91.4%→当月93.0%←前年同月85.6%
定修プラント：前月2社2プラント→当月3社3プラント←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少とともに定修の集中期にあたり、LD、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ベンゼン、キシレンなどの14品目でマイナスとなった。BR、トルエンなどの3品目はプラスとなった。

前年比では、主に定修規模差等からLD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ベンゼン、キシレンなどの11品目がマイナス。HD、PS、MMAモノマー、SBR、トルエンなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少と定修規模の増加等からLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差からLD、PPはマイナス。HD、PSは稼働要因等からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、ゴールデンウィーク休暇があった前月に比べ、営業日数が増加したこともあり、LD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってプラスとなった。

前年比は、ポリエチレンでは主力のフィルム分野の出荷のマイナスが続いているが、当月は射出成形分野等での出荷増加もあり、ほぼ前年並みの出荷となった。PSは包装分野等での出荷の増加からプラスとなった。PPは主用途の射出成形分野向けの出荷減少もありマイナスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要に関しては依然として改善はみられていない。当月は前月比でLD、PPでプラス。前年比ではHD、PPがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSで減少した。在庫率(季節調整済)ではLD、HD、PP、PSで僅かながら上昇した。在庫水準としては、LD、PPは高め、HD、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LD	▲17,700	3.3	3.5
HD	▲2,000	2.5	2.6
PP	▲66,200	2.8	2.9
PS	▲5,400	1.2	1.3

以上